



# レ・ヴァン・フランセ

## Les Vents Français

2023年3月6日(月) 19:00開演  
東京オペラシティ コンサートホール

Mon. 6 March 2023, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催：ジャパン・アーツ

共催：公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

協力：ワーナーミュージック・ジャパン

ソニー・ミュージック ジャパン インターナショナル

25<sup>th</sup>  
Anniversary  
Tokyo Opera City  
Concert Hall / Festival Hall



©wildundleise. de Georg Thum



## Program

ライネッケ：オーボエ、ホルン、ピアノのための三重奏曲 イ短調 Op.188  
C. Reinecke: Trio for Oboe, Horn, and Piano in A minor Op.188

テュイレ：ピアノと管楽器のための六重奏曲 変ロ長調 Op.6  
L. Thuille: Sextet in B-flat major, op.6

\*\*\*\*\*

タンギー：六重奏曲～ピアノと木管五重奏のための(委嘱新作/日本初演)  
E. Tanguy: Sextuor pour piano et quintette à vents (Commissioned work / Japan Premiere)

ミヨー：フルート、オーボエ、クラリネット、ピアノのためのソナタ Op.47  
D. Milhaud: Sonata for Flute, Oboe, Clarinet and Piano Op.47

### プーランク：六重奏曲

F. Poulenc: Sextet

### レ・ヴァン・フランセ 2023年 日本公演スケジュール

3月4日(土)	豊田	豊田市コンサートホール	主催：(公財)豊田市文化振興財団/豊田市
3月5日(日)	千葉	千葉県文化会館	主催：(公財)千葉県文化振興財団
3月6日(月)	東京	東京オペラシティ コンサートホール	主催：ジャパン・アーツ
3月7日(火)	東京	文京シビックホール	主催：(公財)文京アカデミー
3月9日(木)	箕面	箕面市立メイプルホール	主催：(公財)箕面文化振興財団
3月11日(土)	横浜	神奈川県立音楽堂	主催：神奈川県立音楽堂 指定管理者：(公財)神奈川県立芸術文化財団
3月12日(日)	三鷹	三鷹市芸術文化センター	主催：(公財)三鷹市スポーツと文化財団



## Profiles

### レ・ヴァン・フランセ

*Les Vents Français*



© Warner Classics

ポール・メイエが中心となり、国際的に活躍する10年来の友人達と、フランスのエスプリを受け継ぐ木管アンサンブルとして結成。演奏される機会の少ない名曲の紹介、最高の奏者で最高の演奏を心がけており、合奏でも個人の輝きを見せるというフランスの伝統を重んじている。小さな編成から大きなアンサンブルまでレパートリーによってメンバーや編成も変わる。

メンバーが参加し制作されたプーランクの室内楽全集のCDは99年のプーランク・イヤーに発売されると同時に絶賛を浴び、日本では第37回音楽之友社「レコード・アカデミー大賞」を受賞。以来RCA Red Sealよりトリオやミヨウのエキスの謝肉祭（「スカラムーシュ〜ミヨウ：独奏楽器と管弦楽のための作品集」）のCDが発売され話題を呼んでいる。CD「フランスの風〜ザ・ベスト・クインテット」（ユニバーサル ミュージック）は第50回レコード・アカデミー賞大賞銀賞を受賞。また「管楽器とピアノ〜レ・ヴァン・フランセの真髓」（2014年）、「ベートーヴェン：管楽器とピアノのための作品集」（2016年）、「コンチェルトンテ!」（2018年4月）がワーナー・クラシックスから発売されている。2002年3月、アンサンブルとして初来日。NHKテレビでもその演奏会の模様流れ、予想をはるかに超えるあまりの完璧な演奏は聴衆に衝撃を与えた。



### エマニュエル・パユ (フルート)

*Emmanuel Pahud (Flute)*

人気と実力の双方を兼ね備えたフルート界のスター。1970年ジュネーヴ生まれ。ブリュネル、グラフ、デポスト、マリオン、ラルデ、アルト、ニコレに学ぶ。89年神戸、92年ジュネーヴの両国際コンクールで優勝。93年ベルリン・フィルに23歳の若さで首席奏者として入団。以来ソリストとしても世界各地で活躍し、ワーナー・クラシックス専属アーティストとして constants にCDを発売。深い音楽性と、自然で色彩豊かな音色が絶賛を博している。2009年フランス芸術文化勲章「シュヴァリエ」受章。



### フランソワ・ルルー (オーボエ)

*François Leleux (Oboe)*

繊細で優美な音色と信じ難いテクニックで、オーボエ界のスターとして活躍。91年にミュンヘン国際音楽コンクールで優勝し、一躍国際的注目を集める。その他トゥーロン国際コンクールでも第1位を受賞。18歳でパリ・オペラ座管の第1オーボエ奏者となり、21歳でバイエルン放響の首席オーボエ奏者に抜擢。現在はソリストとして世界各地で活躍のほか、指揮者としても幅広く活動し、溢れんばかりの熱意と活力を持つことで知られる。



### ポール・メイエ (クラリネット)

*Paul Meyer (Clarinet)*

名実共に世界のトップに立つクラリネット奏者。1965年アルザス生まれ。13歳でソリストとしてデビュー。19歳でカーネギーホールにデビュー。85年にトゥーロン国際コンクール優勝。以来世界有数のソロ・クラリネット奏者として全世界で活躍。完璧な技術と品のある豊かな音色を持つ天才奏者としてベリオ、ペンデレツキ他数多くの作曲家達から曲を捧げられ初演も多い。近年では指揮者としても活躍。デンオン、ドイツ・グラモフォン、BMGファンハウス他多数のレーベルより数多くのCDが発売されている。使用楽器：Buffet Crampon Divine、Tradition



### ラドヴァン・ヴラトコヴィチ (ホルン)

*Radovan Vlatkovic (Horn)*

現代最高のホルン奏者のひとり。1962年ザグレブ生まれ。82年弱冠20歳でベルリン・ドイツ響の首席奏者に就任。83年難関ミュンヘン国際ARDコンクールでホルン部門14年ぶりの第1位を獲得。84年ザルツブルク音楽祭にデビュー。以来、世界中でソリスト・室内楽奏者として活躍。98年よりザルツブルク・モーツァルテウム、2000年よりマドリッドのクイーン・ソフィア音楽大学にてホルンの教授を務めている。ロンドンのPaxman Model 20Mを使用。



### ジルバール・オダン (バスーン)

*Gilbert Audin (Bassoon)*

フランス式バスーンの第一人者。1956年生まれ。73年パリ高等音楽院に入学し、バスーンをモーリス・アラールに、室内楽をクリスティアン・ラルデに学ぶ。同音楽院にてバスーンと室内楽で一等賞を得る。74年ジュネーヴ国際コンクール第2位（1位なし）、75年ミュンヘン国際ARD音楽コンクール第3位を受賞した後、80年ジュネーヴ国際コンクール、82年トゥーロン国際コンクールの両コンクールで第1位を受賞。現在、パリ・オペラ座管首席奏者。フランス国立パリ高等音楽院教授。使用楽器：Buffet Crampon Bassoon Prestige



### エリック・ル・サーージュ (ピアノ)

*Eric Le Sage (Piano)*

1964年南仏エクス・プロヴァンス生まれ。パリ高等音楽院を経て、ロンドンでマリア・クルチオに師事。85年ポルト国際コンクール第1位、89年ロベルト・シューマン国際コンクール第1位及びリーズ国際コンクール第3位。ソリスト、室内楽奏者として活躍。Alphaレーベル他よりCDが多数発売されている。メイエ、パユとサロンド・プロヴァンス音楽祭を主宰。古典から現代まで作品の核心に触れる深い解釈とフレンチ・ピアノイズムを継承する演奏で高い評価を受けている。

## Program Notes

木幡 一誠 (音楽評論家) Issay Kohata

カール・ライネッケ (1824-1910)

### オーボエ、ホルン、ピアノのための三重奏曲 イ短調 Op.188

第1楽章：アレグロ・モデラート

第2楽章：スケルツォ

第3楽章：アダージョ

第4楽章：フィナーレ、アレグロ・マ・ノン・トロppo

ドイツの古都、ライプツィヒと縁の深い音楽家がライネッケだ。歴史ある名門ゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者を1860年から1895年までつとめる一方、ライプツィヒ音楽院で作曲の教鞭もとった(後に学長就任)。作曲家としての彼も、若き日に同じ街で師事したメンデルスゾーンやシューマンの影響のもと、19世紀中葉にドイツ音楽が極めた正道を受け継ぐ楽曲を数多く残している。

本日取り上げられる三重奏曲(1887年出版)は、ソナタ形式の第1楽章に始まり、ロンド形式のフィナーレで閉じられるオーソドックスな構成。オーボエとホルンが持つ、牧歌的かつ抒情的でヒロイックな性格を対比ならびに融和させていく筆使いに妙味があり、それは同時代のブラームスが一連の交響曲で、この2つの楽器を使いこなした態度にも通じよう。

ルートヴィヒ・テュイレ (1861-1907)

### ピアノと管楽器のための六重奏曲 変ロ長調 Op.6

第1楽章：アレグロ・モデラート

第2楽章：ラルゲット

第3楽章：ガヴォット、アンダンテ・クアジ・アレグレット

第4楽章：フィナーレ、ヴィヴァーチ

テュイレは北イタリアのボルツァーノに生まれて、ドイツで活躍した作曲家。3歳年下のリヒャルト・シュトラウスとは少年時代から親しい間柄だった。しかし彼自身の作風はシュトラウスほどの先進性は持たず、シューマンやブラームスの影響も強くのぞかせる。1888年に作曲された「六重奏曲」も然りだ。

第1楽章はホルンのソロで始まる第1主題、クラリネットが導く親密なタッチの第2主題、全合奏で盛り上がる結尾主題を用いた、交響曲風の充実感すら備わるソナタ形式。第2楽章は深い森の情景を思わせ、そこに感傷的なモチーフが彩りを添える。第3楽章の主部はバロック風の装いで、テンポを速めた中間部は民謡調に転じる。多彩な転調楽句も駆使した第4楽章は、古典派時代の管楽作品で典型をなした“狩のロンド”を連想させるフィナーレ。

エリック・タンギー (1968-)

### 六重奏曲～ピアノと木管五重奏のための

フランスのノルマンディー地方に生まれ、1991年にパリ音楽院をプルミエ・プリ(一等賞)で卒業したタンギーは、作品が取り上げられる機会の多さでは現代音楽界でも際立った存在の1人であり、受賞歴も多い。国際室内楽協会からの委嘱で筆がとられた《六重奏曲》は2022年の9月に完成し、レ・ヴァン・フランセの6人への献辞が掲げられている(今回のステージが日本初演)。

曲は単一楽章構成だが、大きく3つの部分に分けてとらえられる。タンギーが寄せた文章によれば、各部分の構成素材には“相似性を持った双子”の要素が備わり、それが“似ながらも異なる”という二元的な様相を呈していく。そのフレーズが回帰を遂げるたびに“本来は異なるはずの旋法が融け合えるかということを試みてみた”。対称性を持った動機を万華鏡のように扱い、音の相乗効果を通じた詩的な追求、さらには色彩感の現出を意図しながら、それが外面的な効果に終始せず、瞑想性や明るい遊戯性、そして“流れていく時間の知覚”を促すというのもタンギーの言葉だ。

ダリウス・ミヨー (1892-1974)

### フルート、オーボエ、クラリネット、ピアノのためのソナタ Op.47

第1楽章：静かに

第2楽章：喜ばしげに

第3楽章：激しく

第4楽章：痛ましげに

1920年前後の時期からパリで頭角を表した新進作曲家集団“六人組”。印象主義やロマン主義から脱却をポリシーとして掲げた彼らの明解にして洒落た作風を代表する存在が、南仏はエクサンプロヴァンス出身のミヨーだ。

1917年1月から約2年間、文学者にして外交官のポール・クローデルがリオデジャネイロのフランス大使館へ奉職するのの際し、彼は私設秘書として随行した。南米の風物に接して彼が覚えた新鮮な感動は、帰国直前の1918年に筆が進められた「ソナタ」に余韻を響かせている。第1楽章で歌われる子守唄風の楽想を包み込むのは、ミヨーの代名詞にあたる複調性の和声だ。第2楽章は夢の中で響くサンバのリズムさながら。律動的なモチーフや音階走向が火花を散らす第3楽章を経て、ブラジルへの追想もたえた第4楽章が曲をしめくくる。

フランシス・プーランク (1899-1963)

### 六重奏曲

第1楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ

第2楽章 ディヴェルティスマン／アンダンティーノ

第3楽章 フィナーレ／プレスティッシモ

ミヨーと共に“六人組”に名を連ねたプーランクは生粋のパリジャンにして、骨の随までメロディストと呼べる人物だった。その音楽は友人から「僧侶と悪童の同居」と形容されたこともある。彼が内面に抱く都会人的な憂鬱が、ときに諧謔的なまでウイットのきいた筆致と同居を遂げた結果だ。そんな二面性が顕著に現れてくるのは、重要な友人を亡くすなどの不幸に見舞われた1930年代初頭以降のこと。1932年に完成し、翌年12月の初演を経て1939年に改訂された《六重奏曲》は、当時のプーランクの精神世界を色濃く反映させた作品である。

第1楽章はたたみかけるような導入部に始まり、そこで全曲を統一する動機が提示される。主部はどこか落ち着かないムードで、ときに辛辣な語彙も交えながら移り気な対話が繰り返されていく。パソンの旋律(これも後続楽章で重要な役割を演じる)に始まる中間部はメランコリーの色が濃い。第2楽章は一転してモーツァルト風の清々しさをたたえ、享乐的な中間部は出世作のバレエ《牝鹿》(1924年初演)を想起させる。第3楽章はパリの街角を舞台とする寸劇さながら。それが乱痴気騒ぎに陥る寸前に登場人物がハタと動きを停止。続くコーダは静謐な空気感のもと、主要楽想を回帰させながら肯定的な口調の終結へ曲を導く。

欧州楽壇を度巻する“時代の寵児”シャニがロッテルダム・フィルと  
共に待望の来日! 豪華ソリストたちと魅せる多彩な響きの世界

# ラハフ・シャニ 指揮 ロッテルダム・ フィルハーモニー管弦楽団

諏訪内晶子 出演!

6月23日(金) 19:00

会場: サントリーホール

ポロティン: 交響詩

「中央アジアの草原にて」

チャイコフスキー: ヴァイオリン協奏曲

(ヴァイオリン: 諏訪内晶子)

ブラームス: 交響曲第1番

© Guido Pijper

藤田真央 出演!

6月26日(月) 19:00

会場: 東京芸術劇場

ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第3番

(ピアノ: 藤田真央)

チャイコフスキー: 交響曲第6番「悲愴」

© Marco Borggreve

© TAKAKI KUMADA

S席 ¥18,000 A席 ¥15,000 B席 ¥12,000 C席 ¥9,000 D席 ¥6,000

その他の日本公演: 6/24 所沢市民文化センターミュージアム アークホール★ 6/25 サシンフォニーホール○ 6/27 ミューザ川崎シンフォニーホール★ ソリスト: ★藤田真央 ©諏訪内晶子

躍動するソリストたちと共に、若き巨匠が生み出す新時代の鼓動

ROHM presents 山田和樹 指揮

# バーミンガム市交響楽団

6月29日(木) 19:00

ショパン: ピアノ協奏曲 第2番

(ピアノ: チョ・ソンジン)

エルガー: 交響曲 第1番

6月30日(金) 19:00

ブラームス: ヴァイオリン協奏曲

(ヴァイオリン: 榎本大進)

ラフマニノフ: 交響曲 第2番

会場: サントリーホール(両日)

© Kaito Osada  
(Osada Mondo A&D)

© Benjamin Ealovega

© Christoph Kostlin /  
Deutsche Grammophon

© Hansge Pflanz

S席 ¥18,000 A席 ¥15,000 B席 ¥12,000 C席 ¥9,000 D席 ¥6,000 特別協賛: ROHM株式会社

その他の日本公演: 6/23熊本県立劇場★ 6/24兵庫県立芸術文化センター★ 6/25横浜みなとみらいホール★ 6/27石川県立音楽堂★ 6/28文京シビックホール○ 7/1愛知県芸術劇場○ <ソリスト> ★榎本大進 ○チョ・ソンジン

人のいるところには夢がある。  
JAPAN ARTS

ジャパン・アーツぴあ 0570-00-1212 www.japanarts.co.jp

コールセンター営業時間 10:00-16:00 火曜定休(変動あり) ※料金には消費税が含まれております。

鮮烈なピアニズムから香り立つ馥郁たるファンタジー

# 牛田智大 ピアノ・リサイタル

3月16日(木) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール

シューベルト: ピアノ・ソナタ 第13番

シューマン: ピアノ・ソナタ 第1番

ブラームス: ピアノ・ソナタ 第3番 他

S席 ¥6,000 A席 ¥5,000 B席 ¥4,000

© Ariga Terasawa

ブルース・リウ 共演決定!

# パーヴォ・ヤルヴィ 指揮 チューリッヒ・トーンハレ 管弦楽団



© Kaupo Kikkas



© Yanzhang

10月16日(月) 19:00

ショパン: ピアノ協奏曲第1番

(ピアノ: ブルース・リウ)

ブラームス: 交響曲第1番

10月18日(水) 19:00

ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第2番

(ピアノ: ブルース・リウ)

ベートーヴェン: 交響曲第5番「運命」

会場: サントリーホール

(両日とも)

4月末  
チケット発売予定



© Tonhalle-Gesellschaft Zürich Priska Kottner

人のいるところには夢がある。  
JAPAN ARTS

ジャパン・アーツぴあ 0570-00-1212 www.japanarts.co.jp

コールセンター営業時間 10:00-16:00 火曜定休(変動あり) ※料金には消費税が含まれております。